

オープン市場短信 (2013年12月)

2013.12.09

◆ 11月のCP市場動向

11月のCP（短期社債）月末残高は、賞与資金手当て等の需要から、14兆5012億円と前月比3197億円の増加となり、4ヶ月ぶりに前月比プラスとなった。特に、月末日には久し振りに1兆円を越える発行が行われた。一般事法は前月比+10.99%の増加、ABC Pは微増。その他金融では同▲1.15%、金融機関発行分は同▲1.07%の減少となった。

発行レートは、月初は弱含み推移であったが、中旬以降は発行増に伴い横這いから若干強含みとなった。最上位銘柄では、最終投資家の運用ニーズが強く、各タームともに0.07%台の出会い。一般事法では、ショートターム物が多かったことに加え大型発行案件があったため、0.075%~0.105%近辺のワイドレンジでの出会いとなった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.0690%~0.0780% 一般事業法人（a-1格）0.0760%~0.1050%
その他金融銘柄（a-1格）0.0710%~0.1300%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	11月末残高	10月末残高	増減
一般事法	44,060	40,103	3,957
その他金融	55,530	56,175	▲ 645
金融機関	29,796	30,046	▲ 250
（政府系金融	250	300	▲ 50）
（銀行等	14,027	14,221	▲ 194）
（証券	15,519	15,525	▲ 6）
ABCP	15,626	15,491	135
計	145,012	141,815	3,197

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

11月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0720% ~ 0.0790%	0.0710% ~ 0.0770%	0.0690% ~ 0.0780%
a-1 (一般事法)	0.0750% ~ 0.1050%	0.0790% ~ 0.0960%	0.0760% ~ 0.1050%
a-1+(リース銘柄)	0.0770% ~ ——	0.0760% ~ ——	0.0750% ~ 0.0820%
a-1 (リース銘柄)	0.0800% ~ 0.1070%	0.0890% ~ 0.1120%	0.0710% ~ 0.1300%
a-2	0.0900% ~ ケ 0.30%	0.1050% ~ ケ 0.35%	0.1050% ~ ケ 0.40%

《CPオペ》

CP買入オペは、11月は7日・18日・26日と3回実行され、それぞれ4500億円にてオフアーされた(各回500億円増額)。7日のオペでは、現先や発行レート低下が影響し按分・足切りレート共に低下となり、過去最低水準となった。しかし、18日・26日のオペでは発行増と現先レートの上昇により、ディーラーの応札ニーズ強まったため、足切りレートは強含みになった。

[11月末のオペ残高・・・2兆2,546億円]

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
11月7日	11月12日	4,500	5,954	4,242	0.042%	0.079%	34.0%
11月18日	11月21日	4,500	8,345	3,956	0.058%	0.067%	42.7%
11月26日	11月29日	4,500	9,062	3,997	0.067%	0.071%	94.8%

《ABCP》

ABCPの月末残は、1兆5626億円(前月比135億円増)で、発行残高は3ヶ月連続で1兆5千億円台となっている。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、発行登録企業数は富士ソフトが新規登録を行ない、493社となった。11月末時点における通算の発行企業数は、サントリー食品インターナショナルが新規発行を行ったことから529社となり、それぞれ1社増となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、11月は振幅の大きいレポレートに影響された為、ワイドレンジでの取引となり、0.075%~0.100%近辺での出会いとなった。

◆ 12月のCP市場動向

12月中のCP償還額は約3兆3700億円で、前年同月の償還額（約3兆4700億円）を若干下回っている（除く、金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、先月に続き賞与手当て対応の発行等により、活況が予想される。しかし、ショートターム物中心の発行（月末償還物）が予想される事と四半期末決算で残高調整が行なわれることから、月末残高については15兆円台前半に止まると思われる。

発行レートは発行増に伴い、発行額の大きな銘柄や月末償還案件等ショートターム物については、強含み地合いとなるだろう。ロングターム物については、ディーラーのニーズも強く横這い推移を予想する。

一般銘柄の3M物では0.075%近辺～0.100%前後の出会い。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の3M物は、0.08%台後半～0.100%台前半での出会いをそれぞれ予想する。

《CPオペ》

今月は、5日（実施済）・16日・25日と計3回の入札が何れもオファー額5000億円（各回：前月比500億円増額）にて実施される予定。

5日実施済分のオペについては、先月末の発行増を受けてディーラーの応札ニーズが強まり、5月9日オファーのオペ応札額（1兆1217億円）を上回る1兆1688億円の応札があった。その結果、按分・平均レートは共に上昇し、按分レートは0.072%、平均レートは0.077%であった。次回以降のオペについては、先月末から発行増加が続いている為、ディーラーのポジションも相応に増加していると考えられる。オペは、今月も増額されているとはいえ、レートは低下しづらいただろう。しかし、先月同様に応札可能銘柄が限定された場合には、ボラタイルな動きになることもありえよう。

月末オペ残高は、2.2兆円前後を予想する。

《CP現先市場》

S/N物のレポレートは、先月同様0.070%台～0.090%台でのレンジが予想される。インターバンクレートは、変化が少なく0.065%～0.075%近辺での推移を予想する。

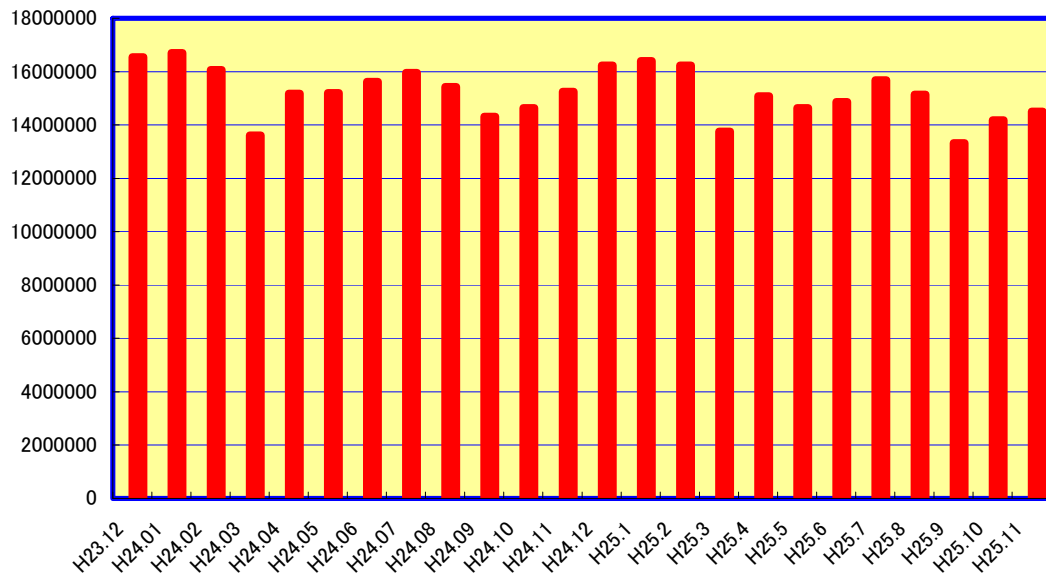
CP現先レートは、新規発行増とレポレートの影響を受け、0.080%台～0.090%台での出会いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（23年12月～25年11月）

発行登録企業：493社（発行実績あり529社）

（過去2年間の残高を表示）



11 月末発行残高ベスト 20

11月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	11月末残高	10月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	786,900	756,300
2	三菱UFJリース	718,500	747,400
3	東京センチュリーリース	626,200	613,900
4	三井住友信託銀行	522,700	533,700
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	三菱UFJモルガンスタンレー証券	493,800	484,000
7	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	470,770	492,320
8	JXホールディングス	447,000	455,000
9	JA三井リース	331,000	331,000
10	興銀リース	327,900	320,300
11	みずほ証券	327,700	335,400
12	新日鐵住金	303,000	235,000
13	アルカディア・ファンディング	270,620	277,610
14	エイペックス・ファンディング	262,880	230,390
15	ジェイエフイーホールディングス	247,000	191,000
16	芙蓉総合リース	239,700	239,700
17	日本証券金融	233,000	211,000
18	三菱商事	225,000	129,000
19	東芝	220,000	266,000
20	オリエントコーポレーション	201,600	191,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会